

報知新聞

下徳國相馬郡宿連寺村多百姓永妻
小兵衛の母をるへ今年七十三の松老
あるは日の夜香を透り吹ひ散るは
さあ昨日頂出入の戸張村士の山石五
成歳と六十八の五月の老漢と
のしを移るへ一終に先月八月
夜徹すけりる手にきやう暖めの
る暖めつ向をむ煩冠り自髪願
の障子をかねぬりの海高多怪の小
兵衛の太に魂消引戻るを為し
も中も研入さるる松枝所訴出
戸長寺柳氏の理解は依り思ひ切
る松枝前山の村と娘より山の法向も
性のある世にの瀬と別をくへ馳火
原に備えの毒文はか為すを



金持堂

大徳堂
彫